

# 笑

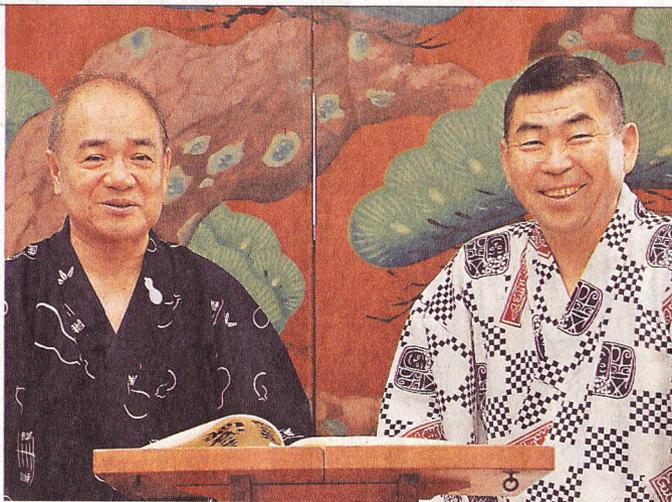
## 落語

## 文楽 英大夫・南光が語る深い仲

知られている話だからパロディー化

上方文化を担う文楽と落語の深い仲とは——  
文楽太夫の豊竹英大夫と、英大夫に浄瑠璃(義太夫)を習っている落語家の桂南光が語りあった。

桂南光 1951年生まれ。70年に桂枝雀に入門、べかこを名乗る。93年に三代目桂南光を襲名。



—滝沢美穂子撮影

豊竹英大夫 1947年生まれ。67年に三代目竹本春子大夫に入門、祖父は人間国宝の故・豊竹若大夫。

### 対談に登場する作品

#### 文楽「桂川連理柵」

伊勢参りの帰りだった隣家の14歳の娘・お半と出会い深い仲になった帯屋の主人・長右衛門。義母のおとせと連れ子の儀兵衛は長右衛門を陥れようとたくらみ、お半の恋文を持ち出す。事情を知る長右衛門の妻・お絹は恋文は隣家の丁稚(でっち)・長吉に宛てたものごまかす。すでに身ごもっていたお半と長右衛門は桂川で心中してしまう。

#### 落語「どうらんの幸助」

浄瑠璃の稽古で耳にした義母の嫁いじめを事実と思いこんで、もめごとの仲裁に乗り込もうとする勘違い男が主人公。

英 橋ノ円都さん(1972年に亡くなった上方落語家)の「どうらんの幸助」——をテープで聴かせてもらったことがありま

す。最後の勘違いに気づくところで、ハハハハ!とすぐ笑うですよ。「桂川連理柵」——で、儀

兵衛がなんで長吉がお半のカレシなんや、というところの笑いを使ってるんですよ。円都さんは浄瑠璃や文楽が好きだったんですよ。よく聴いてはる。

南 はあく、あれはそういうことなんですか。円都師匠のそこには、うちの師匠(桂枝雀)の稽古について行ったことがあるんです。浄瑠璃を語りはりましたけど、何をいうてはるか全然わからなくて。

英 ちょっと語れると、人に聴かせたくなるもんです。

南 僕もいっぺんだけと、お師匠さんの教室の発表会に出させてもらって、すっかり虜になってしまいました。あの国立文楽劇場の床で、たとえ5分でも語るのが夢なんです。玄人しか出られないんでしようけど。

英 朝日座のころ、そんなこともありましたよ。よっぽど、お金を使わったんでしようけど。こんな道楽、おまへんで。

南 それにしても、教室には素人さんたちがいっぱい来てて、びっくりました。

英 発表会に出るのは42人。一度舞台に出ると辞めない。

南 普通に文楽の舞台を見ているだけなら、こつこつお話かあと

噺のでき方やろまいツカミ、勉強に

いう感じですけど、稽古してもらっているうちに、なんでそんな声や音で情を伝えるのか、体でわかってきます。登場人物の気持ちや状況をもっと深く考えられるようになった。楽しみ方もぐっと変わりました。



英 落語のネタになっているのはうれしことですよ。「ごうらの幸助」に出てくる、あの悪い婆の「親じゃわやい」という文章は、義太夫の床本には本当はないんですけどね。

南 嫁いじめをわかりやすく表現したんでしょうけど。そこは落語のウソというか。

英 あの婆には確かにそういう雰囲気はあるんです。けど、全然違う。そこが面白い。上手いことちやかしてるなあ。

南 長右衛門は、伊勢参りの帰りのお半とそういう仲になったといひいひです。

英 あんな若い娘が来てみなはれや。そりゃ、男はそうなりませ。

南 そう思います！

英 お半は確信犯。めちゃくちゃませてるんですよ。

南 それに大体、「いやいや、これはしてはいけない」というような男は出てきませんよ。ついで、うかうかっ。

英 でも世話物で、若旦那が遊女に本気になるのがあるでしょう。江戸時代で考えたら遊女と心中するなんてすごいこと。それは真実の愛、偉いですよ。

桂南光独演会 31日午後1時

半、大阪・日本橋の国立文楽劇場。「ごうらの幸助」「火焰太鼓」。豊来家一輝らも出演。4500円。米朝事務所(06・6365・8281)。

南 見方によれば分別がない。

英 いろんな作品があるんです。理想的なものを描きながら面白みもあったりする。人物像は深いですよ。昔はもっと落語と交流がありました。こっちは勉強になるんです。噺とはこういう風にできているのか、ツカミがうまいな、とかね。祖父も、よくラジオで落語を聴いていましたから。



南 橋下(徹・大阪市長)さんのおかげというか、別の意味で文楽が話題になって、これまで見たことのなかった人たちも見に来るようになりましたよ。文楽を多くの人が知っていたからこそ、落語はパロディーにしたいんです。文楽が知られた方が噺家もやりやすくなる。

英 ホンマに細かくやったら、こんなとてつもなく難しい芸能はありませんけど。

南 決まった音を出せないと世界を描いていけないことが、お稽古でわかってきました。

英 節がいい加減じゃ、どうにもならない。たった10分弱語るだけでも、どれほどの約束ごとがあるか。南光さんはテレビでもええこというてくれる。よう見に来てくれるしねえ。貢献度は大きいでせ。

南 もっと、落語の稽古をせなアカン。でも浄瑠璃の稽古に比べたら、どんだけ楽か。

(6日、大阪・道頓堀の稽古場で)

構成・篠塚健一

はなつる会 30日正午、大阪市

中央区の山本能楽堂。豊竹英大夫が指導する義太夫教室の発表会に桂南光ら42人が出演する。入場無料。英大夫(06・4304・2426)。